

# 農山漁村におけるAIの活用

## AIの現状

- ChatGPT5.2, Gemini3.0等のLLM（Large Language Model）の急速な進化
- 2026年以降、これらLLMの各業界での利用・開発競争が進む。
- さらに、今後5～10年で急速なペースで進化が進み、AIの存在感が高まっていく。  
(フィジカルAI、人間と同等以上の知能(AGI (Artificial General Intelligence)))

## 想定される影響

- 雇用の構造の変化（ホワイトカラーの雇用喪失の可能性）
- 身体的作業者の高収益化
- 付加価値対象の変化（ネットにない一次情報、農地等の有限な資産、人間らしさの価値が向上）

# 農山漁村におけるAIの活用

## AI実装に係る我が国の強み

- 人口減少社会の我が国は、雇用喪失等の社会不安が相対的に少なく、AI実装による生産性向上に適応しやすい
- 我が国は世界に誇れる食文化、地域ブランド、伝統工芸品を有しており、その強みを活かすチャンス
- 主に人口減少を要因とする課題先進国であり、LLMの各応用分野における先進的課題 データの宝庫



食料・農業・農村の斜陽産業化から脱却し、  
成長産業・高収益化に転ずるチャンス